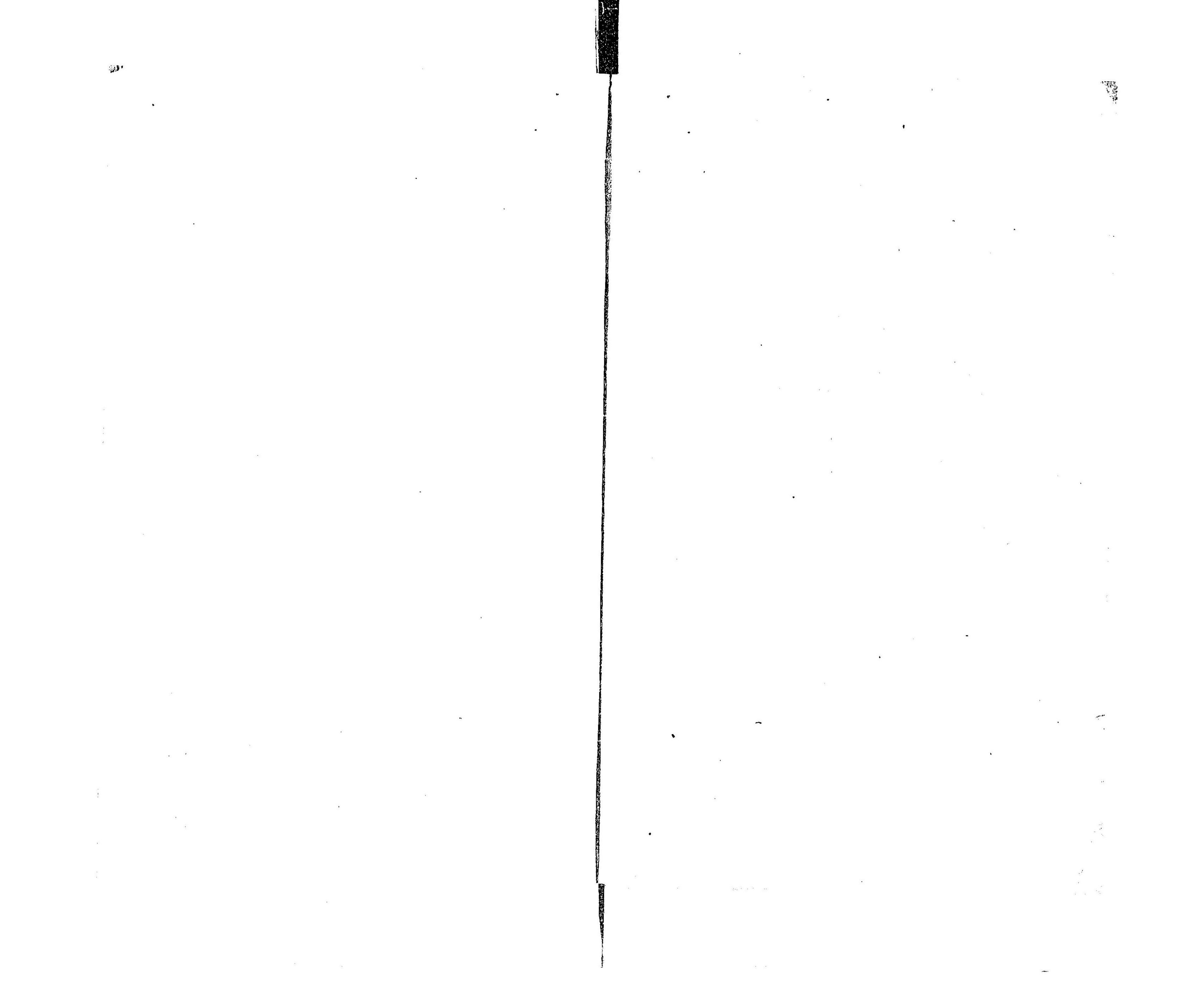


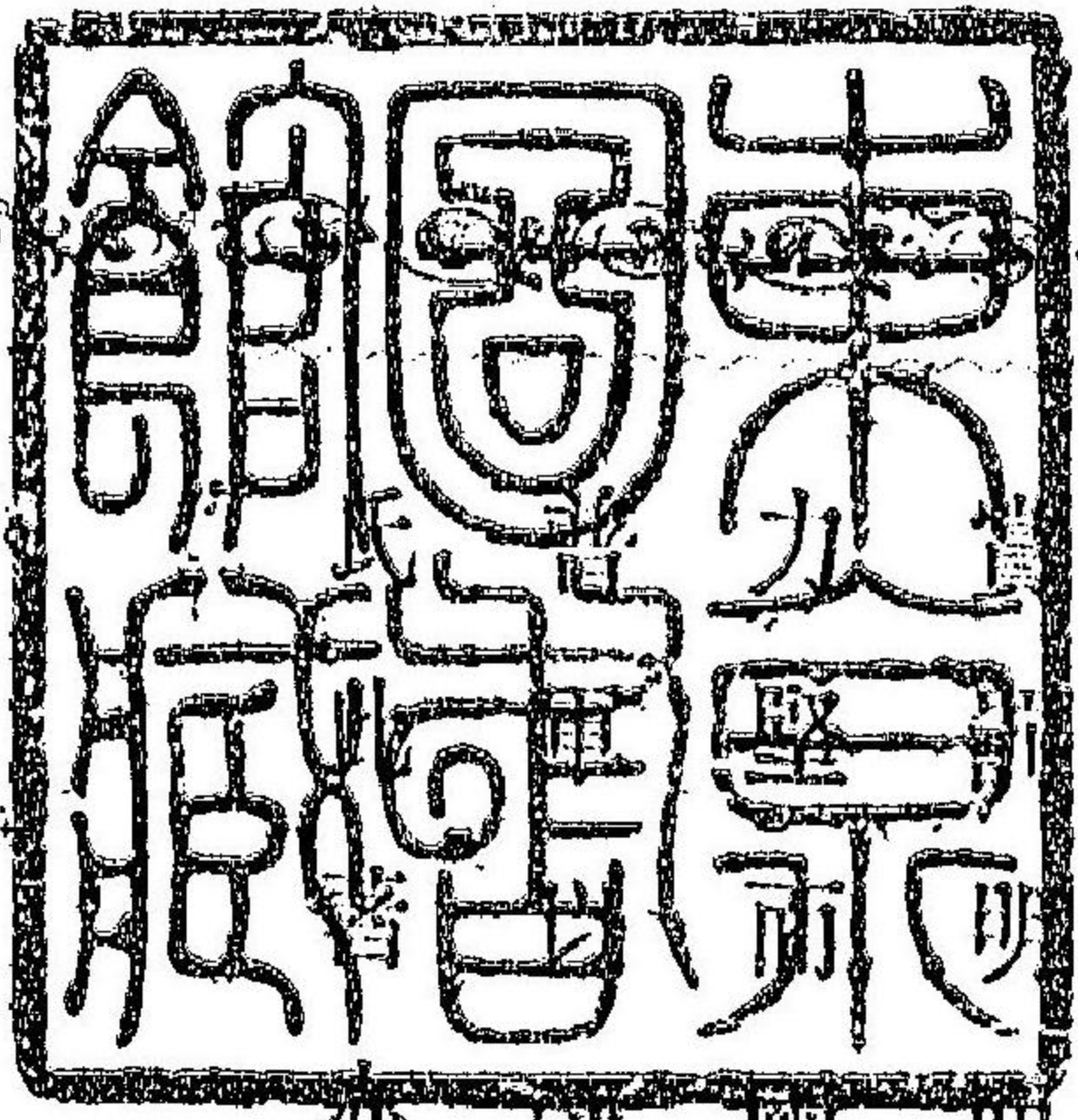
陸軍懲罰令詳解

全



明治二十年二月十八日內務省交付

序



而軍紀整軍紀整而兵力堅兵  
國威張是確然之理不可動也  
強盛誇萬國矣亦非不因之定  
亦有所憾於此而然歟

明治二十年一月

偕同主人 朝操撰



緒言

一本書ハ素ト自己ノ記憶ニ便スル爲メ筆記  
セシ者ニシテ他ヲ益スルノ意アリテナセ  
シニ非ズ故ニ解釋中往々字句穩當ナラス  
爲メニ法文ノ深意ヲ貫カサル所アル可シ  
ト雖モ其云フ所モ亦根據ナキニ非レハ幸  
ニ字句ニ拘泥セズシテ其意ヲ推究セラレ  
ハ初テ之ヲ讀ム者ニ於テ未タ必シモ裨益  
無クシハアラサルナリ

一本書俗解ノ部ハ法文ノ必要ヲ摘取シテ平

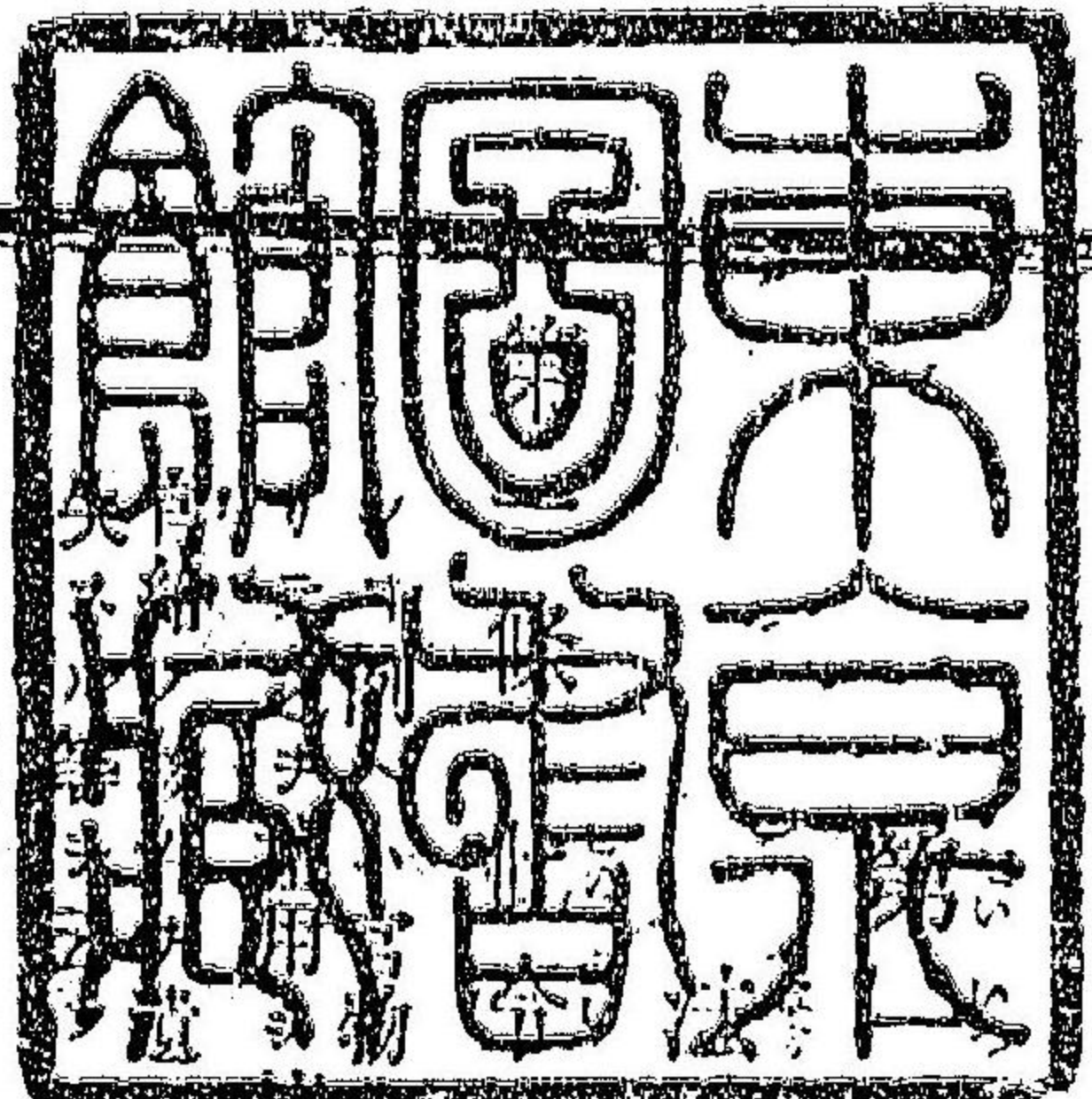


易ニ之ヲ解釋セルモノナレハ初メテ之ヲ  
 讀ム者ハ先ツ俗解ニ就テ大意ヲ覺リ而ル  
 後チ註解ト補註トヲ玩味セラレハ庶幾ク  
 ハ法意ノ幾分ヲ了解スルニ至ラン

明治十九年八月十日

註解者 識

陸軍懲罰令詳解



朝 操校  
 鈴木 定註解

懲罰法ノ例則ト云フガ如  
 キ即チ一般ノ總則チ云フ  
 此令ト書スルハ此ノ懲  
 罰令ヲ指ス以下同シ  
 軍人 軍屬チモ  
 含有ス  
 ノ故意  
 テ爲セ  
 擅用スヘカラザルヲ知  
 屯營本隊ヲ離ル、等  
 疎虞  
 時限ヲ怠レテ召集ノ期ニ後レ  
 懈怠  
 怠リタルノ例ハ物件ノ手入チ怠リ爲ニ  
 汚損シ又ハ勤務演習チ怠リタル等  
 過失  
 テ爲  
 セシノ例ハ命令チ誤リ又  
 ハ物件ヲ誤損セシ等チ云フ  
 ノ輕犯ニシテ  
 刑法  
 陸軍ニ該ラサ  
 ル者及ヒ素行修マラス  
 平生ノ行狀正シカラズシテ或ハ營ノ内外  
 ニ於テ屢瀆行チ爲シ又ハ飲酒チ縱ニシテ



軍人ノ風儀ヲ 軍人ノ 体面ヲ 汚ス 者 自己ノ不品行ヨリ世人ノ尊敬  
亂ス等ヲ云フ 軍人ノ 体面ヲ 汚ス 者 自己ノ不品行ヨリ世人ノ尊敬  
アル 上 官 人ヲ指ス 之ヲ 懲戒スルノ 罰典トス 但 他  
ノ 法律規則 他ノ 諸罰則ニ 依テ 論ス可キ者ハ 各其法律  
規則ニ 從フ

〔俗解〕

コノ中ヨウハツレイハ、ヘイタイノ、ワザトシタ、ウツカリシタ、マケテシタ、アヤマチシタ、ノカルキハツデ、ケイハ、ウニ、アタルホド、デナイモノ、マシハツチ、フギヤウシヤウデ、ヘイタイノ、カホチヨゴス、モノガアル片ニ、カミノヒトガ、コレヲコラスタメニ、イヒツケルハツデア、ル、シカシ、ホカノキソクデ、ハツセラルベキモノハ、ソノキソクデハツスル

〔補注〕

本條ハ此ノ令ニテ罰ス可キ不爲(爲ス可チヲ爲サス)及所爲(爲ス可ラサルヲ爲ス)ヲ規定セラレタル一般ノ總則ナリ  
總テ刑罰ハ有意ノ所爲ニ科ス可キモノニシテ例外ニ非サレハ無意ノ所爲ヲ罰セサルモノナルニ此令多少無意ノ所爲ヲ罰スルテ必要トスルモノハ

向ツヤ曰ク凡ソ人ノ社會ニ住スルヤ各自其身ヲ慎ミ其本分ヲ盡シ一舉一動必ス吾身ヲ反省シテ疎虞過失等ナキニ注意セサル可ラス況シテ軍隊ニ在テハ疎虞過失等ヨリ生スル弊害他ノ社會ニ比スレハ更ニ一層ノ甚シモノアルヲ以テ將校兵士タルモノハ勿論荷モ軍隊ニ属スルモノハ殊ニ注意ヲ加ヘサレハ其極遠ニハ軍紀ヲ亂リ軍ノ軍タルヲ失スルニ至ラン之レ此ノ令無意ノ所爲ヲ罰スルノ最モ必要トスル所以ナリ

第二條

各所管ノ長官ハ

部内各官廳ノ長官本省内各局長等ヲ云フ

部下軍人此令

ヲ犯ス者アル時之ヲ罰スヘシ

〔俗解〕

シヨクワンノチヤウクワンハ、ソノクミシタノモノガ、コノレトニツムイ、タトニ、ハツスル、

〔補注〕本條ハ各所管長官ノ此ノ令ヲ適用スルノ權ヲ規定セラレタルナリ

第三條

各軍隊

九種ノ軍隊

ノ隊長

士官

ハ左ノ區別ニ從テ處

分ス可シ

内務省各隊長ノ職務ヲ參着スヘシ



- 一 聯隊長ハ部下ノ軍人三十日以内ノ謹慎（將校ニ科ス可キ重）
- 二 大隊長ハ部下ノ士官（大少尉及相當官）十日以内ノ謹慎（輕重）
- 三 中隊長ハ部下ノ下士十日以内ノ營倉（前兵卒二）
- 四 十日以内ノ營倉（前獨立一個獨立）若クハ分遣（守衛等）
- 五 シク分遣ノ大隊長ハ聯隊長ト同一ノ權（制ヲ科スル權）ヲ有シ
- 六 獨立若クハ分遣ノ中隊其他ノ隊長ハ大隊長ト同一ノ權（前）ヲ有シ
- 七 軍樂隊長ハ中隊長ト同一ノ權（前）ヲ有ス

ノ權（前）ヲ有ス

〔俗解〕 オノノノ、ヘイタイノチヤウハ、ヒダリニカイテアル、ワカチニ、シタガヒ、ハツチイヒツケルコトガデキル

レンタイチヤウハ、シミシタノモノヲ、三十日ノアイダハ、ハツチイヒツケルコトガデキル  
ダイタイチヤウハ、シミシタノウチ、士官ヲ十日ノアイダ、下士ヲ二十日ノアイダ、兵卒ヲ三十日ノアイダハ、ハツチイヒツケルコトガデキル  
チウタイチヤウハ、下士ヲ十日兵卒ヲ二十日ノアイダハ、ハツチイヒツケルコトガデキル、ヒトリダチノ、ダイタイチヤウ、マタハブンケンノ、ダイタイチヤウハ、レンタイチヤウトオナシ、ヒトリダチ、マタハブンケンノ、チウタイチヤウ、マタハ、セウタイチヤウハ、ダイタイチヤウトオナシ、ブンガクタイチヤウハ、チウタイチヤウトオナシ

〔補註〕 本條ハ各隊長ノ此ノ令ヲ適用スルノ權限ヲ規定セシモノニシテ其官ノ高下ニ從ヒ其權ヲ有スルニ輕重アル所以ハ凡ソ罰ナルモノハ人身ニ多少ノ痛苦ヲ感セシムルモノナレハ其之ヲ科スル最モ鄭重ニセサル可ラサル言



ヲ待スト雖其最モ輕キ者ハ徒ラニ手數ヲ煩ハシテ之ヲ最高官ニ於テ罰  
スルノ必要ナキノミナラス却テ空ク時日ヲ費シ事務ノ滯滞ヲ來スアルヲ  
以テ其所犯ノ輕重ニ從ヒ其權ヲ分割スルノ便益法ニ從ヘルナリ

第四條

衛戍司令官

鎮台ニ屬スル  
生徒司令官

士官學校生  
憲兵

隊長

憲兵ノ  
總隊長

ハ聯隊長ト同一ノ權ヲ有シ

調馬廐長

憲兵

兵分隊長ハ大隊長ト同一ノ權ヲ有シ

幼年生徒

士官學校

附屬及

砲兵工廠生徒掛大尉憲兵分屯所ノ中少尉

ハ中隊長ト同一ノ權ヲ有ス

〔補註〕

本條俗解ヲ要セズシテ明カナリ又々前條ノ不足ヲ補フモノナレハ意義前  
條ト異ナルコトナシ

第五條

懲罰ノ處分ヲ爲シタル

中隊長ハ大隊長ニ

同

大隊長ハ聯隊長ニ分遣隊長ハ本屬隊長ニ幼年生  
徒附大尉ハ生徒司令官ニ憲兵中少尉ハ憲兵分隊  
長ニ聯隊長獨立隊長軍樂隊長衛戍司令官生徒司  
令官調馬廐長砲兵工廠生徒掛大尉ハ所管長官ニ  
申報ス可シ處分セシ罰若シ其犯行權限外ノ日數ニ該  
ル者ト認ムル時ト雖モ例ハ中隊長ハ下士チ十日以内ノ營倉ニ  
以上ノ營倉ニ該ルモノ先ツ其權限ニ從ツテ之ヲ處分シ即チ  
ト同官ガ認定セシ時限十日ニ意見ヲ附シテ申報ス可シ其犯行自己ノ權限外ノ日數  
處分シ該ル意見書ヲ罰文ニ附シ  
之ヲ其ノ上  
官ニ差出ス

〔俗解〕

チウダイチヤウガ、ハツタイヒツケクハ、ソノコトヲダイタイチヤウヘト



ハタル、シカシナガラ、モシハツスベキ、シワザガ、チモクシテ、ジブンガ、ハ  
ツタイヒツケルコトガデキルヒカヅヨリ多クイヒツケテ、ハナラヌ片モマツ  
ジブンガハツスルコトガデキルダケノヒカヅデハツシ、ソノコトカラテ、カ  
ミヘモウシタテル、

申報ヲ受ケタル隊長長官ハ各其權限ニ從ヒ其罰

ヲ變更シ 變更スルトハ日數ヲ増減スルニ非ズ營倉ヲ禁足ニ換ヘ重營倉  
ニ換ヘ又ハ禁足ニ換ヘル等ヲ云フ例ヘハ中隊長ガ十日ノ重營倉ニ處

シシテ大隊長ハ之ヲ輕營倉ニ換ヘル等ヲ云フ例ヘハ中隊長ガ十日ノ重營倉ニ處  
ニ換ヘ又ハ禁足ニ換ヘル等 若クハ日數ヲ増加スルコトヲ得ル例

ハ中隊長ハ一ノ犯行ヲ以テ已レガ權限外ノ日數ニ該ルモノト認ル時本條第一  
項ニ依リ先ヅ已レガ權限式ケノ日數ニ處分シ其ノ意見ヲ申報シシ時大隊長ハ  
自己ノ權限外ニ至ラザル式ケノ  
日數ハ増加スルコトヲ得ルガ如シ

〔俗解〕 ハツノトマケチウケタルタイチヤウハ、ソノハツノヒカヅチマシ、マタ  
ハ、エイソウチクエキナドニカヘルコトガデキル、

〔補註〕 第二項ノ得ノ字ニ注意セサル可カラズ此ノ得ノ字ハ法律ノ聽任法ニシテ  
其罰ヲ變更スルコトヲ得若クハ増加スルコトヲ得ト云フ意義ニシテ其變更増

加スルト否トハ申報ヲ受ケタル隊長長官ノ隨意ニ任スル者也故ニ中隊長  
ハ已レノ權限外ニ該ルト認メテ其意見ヲ申報スルモ大隊長ニ於テ中隊長  
ノ權限外ノ日數ニ該ラスト認ムル時ハ依然日數ヲ増加セザル可シ

第六條 軍中〔戰時中〕若クハ合圍〔同〕ノ地ニ在テハ此ノ

令ニ依テ罰シタルモノヲ載罪服務ノ例ニ從ヒ其

勤務ニ服セシム可シ 〔載罪服務トハ出戰中ニ係ル刑罰人取  
扱規則ニシテ詳細ハ該規則ニアリ〕

〔俗解〕 センソウチウハ、コノチヨウハツレイデ、ハツシタ、モノハ、ベツニハツニ  
トリアツカヒ、キツクガアル、

〔參看〕 戴罰服務規則第七條ニ曰ク懲罰令第六條ニ依リ懲罰ニ處シタルモノニ服  
務ヲ命シタル隊長〔所屬長〕ハ本人ノ功勞ヲ酌量シ隨時本罰ヲ全免スルヲ  
得

第七條 甲所ニ於テ此令ニ掲グル犯行アル者未ダ處

分ヲ經スシテ乙所ニ轉スル時ハ甲乙互ニ通議シ



乙所ニ於テ處分スヘシ

〔俗解〕 マイニオツクタイデ、チヨウハツレイニ、アタルコトナシテ、マダハツセラレヌウチニ、ホカノタイヘ、ウツリシトキハ、リヤウホウノタイチヤウガ、ソウダンシテ、アラタニウツリシタイデハツチイヒツケル

〔補註〕 本條ハ所管ヲ轉ズル前ノ所犯ヲ罰スルノ規則ヲ定メタルモノナレバ若シ轉移途中ニテ軍人ノ態度ヲ失スル等ノ事アルキハ如何目ク本條ノ手順ヲ爲スニ及ハス何トナレバ己ニ轉隊ヲ命セラレテ發送スル以上ハ乙隊ニ屬スルモノニシテ甲隊ニ關係アラザルノミナラズ本條ニ甲所ニ於テ此ノ令ヲ犯ヌ云々トアリテ途中ノ犯行ノ如キハ甲所ニ於テ關セサルノ意現然タレバナリ

第八條 此ノ令ニ悞ズル所ノ犯行二箇以上俱ニ發スル時ハ

〔例ヘハ前ニ物件ヲ悞毀セシ所爲アリシニ未タ發覺セシテ〕 其後物件ノ拭拂法ニ違フタルキ前所爲ノ俱ニ發覺セシ等

其罰ヲ科ス但一所爲ニ不爲チモ 二個以上ノ犯行ニ觸ル

ルモノハ 〔例ヘハ官物ヲ擅用シ爲メ〕 其一ヲ科ス

〔俗解〕 コノチヨウハツレイニ、カイテアル、ハツガ、ニツイテドニ、アブハレタトキハ二ツトモ、ハツチイヒツケル、シカシ、一ツノシワザガ、二ツノハツノキソクニ、アタルトキハ、一ツダケ、ハツチイヒツケル、

〔補註〕 本條ハ數犯行俱發ノ場合ヲ規定セルモノニシテ最モ注意シテ解釋セサル可カラス本條但書ニ一所爲二個以上ノ犯行ニ觸ル、モノハ其一ヲ科ストアリ單ニ文字上ヨリ見ルキハ例ヘハ發ニ官物ヲ擅用シ〔犯行十二〕爲メニ之ヲ悞毀セシモノ〔犯行三十六〕及ヒ酩酊事ヲ省セシテ〔犯行十七〕暴行ヲ爲シタルモノ〔犯行十五〕アリトセンニ之レ二個ノ犯行ニ觸ル、モノナレバ其所爲タル亦ヲ擅用ト悞毀及ヒ事ヲ省セサルト暴行トノ二個ニシテ之ヲ一所爲ト云フ可カラス然ラハ則チ本條ノ但書ニ該ラサルカ如シ然レバ余ヲ以テ之ヲ見レハ一所爲ハ直ニ一所爲ノ原因トナリタルモノナレハ無論其ノ一ヲ科シテ可ナルモノ、如シ若シ但書一所爲ノ文字ニ拘泥シテ此等ヲ本條ニ該ラサルモノトセハ單純ナル一所爲ニシテ二個以上ノ犯行ニ觸ル、モノハ左ノ場合ノ如キヲ除ク外ハ蓋シ無シト云テ可ナラン



例ハ茲ニ酌罰事ヲ省セサルモノトセンニ(犯行十七)之レ又軍人ノ態度ニ合セサルモノナレハ(犯行二十八)酌罰事ヲ省セサルノ一所爲ニシテ二個ノ犯行(十七、二十八)ニ觸ル、ナリ

然レモ右ノ場合ノ如キハ外面ヨリ之レヲ見レハ二個ノ犯行ニ觸ル、ニ似タリト雖モ其精神ヲ推スルハ則チ一個ノ犯行ニシテ決シテ二個ノ犯行ニ觸ル、モノニ非ス何トナレハ酌罰事ヲ省セサルナ理由トシテ罰スルモノニシテ軍人ノ態度ニ合セサルヤ否ヤハ關係セサレバナリ若シ必ス此等ヲ二個ノ犯行ナリトシハ第十七ノ犯行ヲ設ケタルノ要ハ果シテ何クニカアルヤ故ニ本條但書一所爲云々ハ一所爲ニシテ其結果二個以上ノ犯行ニ觸ル、ト(即チ一所爲ガ原因トナリ直チニ數犯行ニ觸ル、所爲ヲ生シシト)ト解釋セサルヲ得サルナリ

普通刑法第百一條ニ曰ク違警罪ニ罪以上俱ニ發シタルトハ各其ノ刑ヲ科ス若シ重罪輕罪ト俱ニ發シタルトキハ一ノ重キニ從フトアリ而ルニ陸軍刑法及ヒ此令ヲ參照スルニ懲罰ノ犯行重罪輕罪ト俱ニ發シタルノ場合ヲ規定シシ明文ナシ(重罪刑ニ處セラレタルモノハ兵籍ニ入ルノ權ヲ剝奪セラル、ヲ以テ懲罰ヲ科ス可キノ場合ナシト雖モ輕罪ニ處セラレタルモ

ノハ刑期満ルトハ再ヒ歸隊スルモノナレハ歸隊ノ後チ更ニ懲罰ヲ科スベキモノナルヤ)余ヲ以テ之ヲ見レハ科スヘキノ明文ナキニ於テハ普通刑法第百一條ノ意ヲ推シテ以テ輕罪刑ノミヲ科シ別ニ懲罰ヲ科セサルヲ以テ至當トナスベキニ似タリト雖モ此ノ令ハ他ノ刑法ト其性質ヲ殊ニスルモノナレハ其罰スベキト否トハ一ニ之ヲ長官ノ認定ニ任ス可キノナラ

第九條

軍屬(陸軍刑法第四條ニ曰ク軍屬ト稱スルモノハ陸軍出仕ノ文官其

及ビ陸軍所屬ノ諸生徒(砲兵工廠ノ生徒士)此ノ令ヲ犯

ス時ハ軍人ト同シク處分ス可シ但シ十等以上ノ

軍屬ハ將校ニ十一等以下ノ軍屬ハ下士ニ諸生徒

及ビ等外以下ノ軍屬ハ諸卒ニ準シテ處分ス可シ

〔俗解〕リクダグニツイテオ、ブンクワンヤ、セイトガ、チヨウハツレイニ、ソムイ



タトキニモ、ハツスル

〔補註〕本條ハ軍屬及ヒ緒生徒ニモ適用スルヲ定ム別ニ意義ナシ

第二章

罰例 法例ニ因テ罰スル方法及ヒ罰スル方法ナリ

第十條 將校及ビ同等官 〔醫官計官及軍屬十等以上〕ニ科ス可キ罰目

〔俗解〕シクワンヨリ、ウヘノヒトニ、イヒツケルハツノナ。

一 重謹慎 重輕ノ二字ニ因テ其罰ス可キ方法及ヒ日數ニ區別アルヲ

ナシ只ダ重謹慎ハ故意犯ヲ罰スルモノニシテ其俸給ノ半額ヲ減シ輕謹慎ハ無意犯ヲ罰スルモノニシテ俸給四分ノ一ヲ減スルノ差異アルノミ

第十一條 下士 〔同等官及ヒ軍屬十一等以下ヲモ含有ス〕ニ科ス可キ罰目

一 重營倉 前條ト異ナルヲナシ只ダ重營倉ニ處スル時營内居住ノ者

ニ在テハ俸給十分ノ八ヲ減シ營外居住ノモノハ半額ヲ減シ輕營倉ニ處スル時營内ノモノハ十分ノ六營外ノモノハ四分ノ一ヲ減スルノ差異アルノミ

第十二條 諸卒 〔諸生徒等外吏等ヲモ含有ス〕ニ科ス可キ罰目

- 一 重營倉
  - 二 輕營倉
- 同 右

第十三條 謹慎 〔重輕〕ハ勤務 〔諸勤務〕ヲ停メ他出 〔自家ヨリ他所へ出ル〕

及ヒ外人 〔外來人ヲ云フ〕ト接見通信スルヲ禁ス其日數ハ

一日以上三十日以下ト爲ス 〔増シテ三十日以上減シテ一日以下ト爲スヲ得ス〕

〔補註〕本條ハ士官以上ノ罰人ヲ檢束スル方法及ヒ日數ヲ定ム其ノ他出接見通信ヲ禁ズルハ犯人ノ精神ニ多少ノ痛苦ヲ感セシメ以テ悔改ノ念ヲ起サシムル也

刑法ヲ見ニ輕罪ニ科スル禁錮ノ日數ハ十一日ヲ以テ短期トス而ルニ此ノ



令ノ謹慎日數ハ其長期三十日ニ至ルハ刑罰日數其權衡ヲ失スルニ似タリト雖モ禁錮ノ刑人ハ禁錮場ニ入テ之ヲ檢束スルモノナレハ犯人ノ精神ニ痛苦ヲ感スルヲ謹慎ノ自家ニ閉居スルガ如キニ非ルノミナラズ禁錮ニハ停止公權ノ附加刑アリ強ガテ日數ノミヲ以テ權衡ヲ較ブ可カラザルナリ

重謹慎ハ俸給ノ半額ヲ減シ輕謹慎ハ其四分ノ一ヲ減ス  
〔日割ヲ以テ之ヲ算ス〕

〔俗解〕 シフキンシンヲ、イヒツケタキハ、ゲツキフノハンブン、チヒキサリ、ケイキンシンナレバ、四ツヒトツテヒキサリ

〔補註〕 俸給ヲ減スルモノハ懲罰中ノ一部ニシテ謹慎ト相待テ完全ノ罰ヲ成シ以テ懲戒ノ目的ヲ充分ニ達スルナリ

第十四條 謹慎限内疾病アレバ醫ヲ延ク  
許シ水火等ノ災害アル時ハ  
スルヲ許ス

〔呼ヒ寄〕  
自家ニ危害アテ  
防救遷徒

〔俗解〕 キンシンチウ、ビヤウキガ、オコリタルトキハ、イシヤチヨブコトハデキル、マタクワシオ、ミヅナドデアブナイトキニハ、デ、フセグヲガデキル、マタクチガ、ヤケタリナガレタリ、シタトキハ、ホカノウチヘウツルヲモデキル

〔補註〕 本條ハ前條ニ密着セルモノニシテ前條ノ禁ヲ解クベキ場合ヲ示セルナリ故ニ本條掲ケル所ノ水火ノ場合ヲ除クノ外ハ如何ナル危害アルモ前條ノ禁ニ服セサルヲ得ザルモノ、如シト雖モ兇徒盜難ノ場合ノ如キモ亦タ防救遷徒スルヲ得ルナリ何トナレバ人間其身体財産ヲ防衛スルノ權アルノミナラズ本條水火ノ災害ト云ハズシテ水火等ト云フ等ノ一字他ノ萬種ノ危害ヲ含有スルヲ見ル可ケレバナリ

第十五條 謹慎限滿ツルキハ其罰ヲ命シタル上官ニ將來悔改スヘキ旨ヲ陳ス可シ之ヲ陳スル時ハ同等以上ノ者一名ヲ伴フ可シ



〔俗解〕

シクワンハキンシンノ、ハツカアケタトキニハ、ソノハツタイヒツケラレ  
タ、タイヤウヘ、イゴアヤマチアラタメル、コトタイハチバナラス、ソウ  
シテイフキニハ、ドウヤクノヒトチ、ヒトリツレテユキ、セウコニニスル  
〔補注〕本條ハ第十三條ト精神ノ密着セルモノニシテ第十三條ハ悛改ノ念ヲ起サ  
シムルモノニシテ本條ハ其悛改ノ念ヲ堅固ナラシメント欲スルニアリ  
本條ヲ理論上ヨリ見ルキハ犯人ヲ屈辱セシムルノ嫌ナキ能ハザルガ如シ  
ト雖也決シテ然ラス何トナレハ前ニモ云ヘル如ク軍隊ノ刑罰ハ將校兵士  
ヲ檢束シ以テ軍務ニ勉勵シ軍隊ノ安寧ヲ保全セシムルモノナレハ他ノ社  
會ノ罰則ニ比スレハ更ニ一層ノ嚴格ヲ要スレバナリ

第十六條

重營倉ハ勤務演習ヲ停メ營倉ニ銅シ寢具

ヲ貸與スルヲナク唯飯及ヒ水盥ヲ給ス其日數ハ  
一日以上三十日以下ト爲ス但シ七十二時〔三日〕ノ  
内ニ二十四時〔一日〕ハ輕營倉ニ移ス可シ  
〔輕營倉へ移シタルキハ寢具

ヲ貸與シ食物ハ平  
常ト異ルヲナシ

〔俗解〕

下士兵卒カ、シウエイソウヘ、ハヘリタルキハ、シヨキンムレンメイチヤメ、  
エイソウヘオシコメ、チドウグチアタヘヌ、マタ、クヒモノハ、メシトミツバ  
カリアタヘル、ソノヒカヅハ士官トオナジ、シカシ三日ノウチ一日ダケハ  
ケイエイソウヘウツス、

〔補注〕

本條ハ下士以下重營倉入ノ罰人檢束法ヲ規定セルモノニシテ第十三條  
ノ意ト異ナルヲナシ其ノ寢具ヲ與ヘサル所以ハ故意犯ハ最モ惡ムヘキモ  
ノナレハ之レヲ嚴ニセザレハ懲戒ノ目的ヲ達スル能ハザルノミナラス一  
クヒ營倉ニ銅セラレタルモノハ或ハ却テ之ヲ便利トシテ犯則スルモノナ  
キヲ保ス可ラス然レモ之ヲシテ疾病ニ至ラシムルマテ嚴酷ニス可ラサル  
ハ最モ賭易キノ理ニシテ乃チ三日間ノ内一日ハ輕營倉ニ移スノ寬典アル  
所以ナリ又タ營倉入中疾病アル時ハ醫官ノ來診ヲ乞フヲ得〔内務書營倉  
ノ定則ヲ參看ス可シ〕

第十七條

輕營倉ハ演習ノ外勤務ヲ停メ營倉ニ銅ス



其日數ハ一日以上三十日以下ト爲ス〔輕營倉入ハ寢具ヲ與ヘ食物ハ平常ト異ナル〕

〔俗解〕下士兵卒ガケイエイソウヘハヘリタル片ハ、レンペイニハデル、シカシキ

〔補註〕本條ハ輕營倉入リノ罰入ヲ取扱フ法ヲ示スモノニシテ重營倉ト寛嚴大ニ異ナル所以ハ過失疎虞等ノ所爲ハ多クハ道德ニ背戾セサルモノニシテ多少憫諒ス可キ所アルガ故ノミナラス若シ之ヲ嚴酷ニ處スル時ハ痛苦ニ堪ザルカ爲メ却テ惡念ヲ生シ懲戒ノ目的ヲ誤ルニ至リナキヲ保テ可カラス

第十八條 營外居住ノ者〔外宿下士〕ヲ營倉ニ處スルルル

ハ囚獄ノ監倉〔陸軍〕ニ於テ之ヲ行フ〔管外居住ノ者ト雖モ隊附ノ者即チ看護長卒計官附屬等ハ此ノ限リニ非ス〕

〔俗解〕ソトニテトマリスル下士卒ニエイソウイリチ、イヒツケタルトキハ、シウ

ゴクヘイレル

〔補註〕本條ハ外宿下士卒ノ處分法ヲ定メタルモノニシテ別ニ異ナル意義ナシ其監倉ヘ入ル、ハ營倉ノ設置ナキガ故ナリ

第十九條 重營倉ニ處スルル營内居住ノモノハ俸

給十分ノ八ヲ減シ〔十分ノ二〕營外居住ノモノハ其半

額ヲ減ス〔半額ヲ〕給ス

〔俗解〕下士兵卒ヲシウエイソウヘイレタトキニハ、ニツキウノウチ、十ノ八チヒキサル、シカシソトニトマルモノハ、ハンブンチヒキサル

〔補註〕本條ノ精神モ第十三條ニ説明セシ所ト異ナルコトナシ其ノ營内居住ノモノト營外居住ノモノト減給高ノ異ナル所以ハ元來減給罰ナルモノハ財産ヲ奪フ刑ノ性質ヲ含ムモノニシテ其罰ノ目的ヲ充全セシムルニハ輕罪刑附加ノ罰金ニ於ルガ如ク先ツ其犯人ノ貧富如何ニ着目セサル可ラス今マ茲ニ貧富二人同罪ヲ犯セシ者アットセンニ罰金ヲ附加スルニ際テ等シク五圓ノ額ヲ加フニ於テハ富者ニ取テハ科セサルト一般ニシテ恰モ他人ヘ惠



與セシ思ヒチ爲サシムルノミナレトモ貧者ニ取テハ其痛苦却テ禁錮ニ勝ルヲ以テ其金額ヲ完納スル能ハサルアラン故ニ此等ハ裁判官ノ斟酌ス可キ所ナリ此ノ懲罰令減給法ノ異ナル所以モ亦ク一般ヨリ見ルルハ營外居住ノモノハ食住トモ自辨タルノミナラス多少家族等モアルモノト見做サ、ル可カラサルヲ以テ營内居住ノ者ニ比スレハ減給高ハ少クモ懲戒ノ目的ヲ達スルヲ得ベキトノ推則ニ因テ斯ク定メラレタルモノナラン

輕營倉ニ處スル時營内居住ノ者ハ俸給十分ノ六ヲ減シ營外居住ノ者ハ其四分ノ一ヲ減ス

〔俗解〕ケイニイソウヘイレタトキニハ、エイナイニオルモノハ、ニツキフノ十ノ六ヲヒキサリ、ソトニトマルモノハ四ツ一ツテヒキサル

〔補註〕本條モ前條ノ意ト異ナルコトナシ

第二十五條 第二十五條ニ掲クル所ノ犯行〔一ヨリ廿九ニ至ル〕疎虞

懈怠若クハ過失ニ係ル者ハ重謹慎重營倉ニ處ス

〔俗解〕第二十五條ニカイテアル、ハツノキノクニアタルモノデ、モシソノシワザ

ガ、ウツカリシテナシタコ、マタハアヤマリテシタコトナレバ、ケイエイソウヘイレル、モシコ、ロアリテシタコナレハ、シウエイソウヘイレル

〔補註〕本條ハ此ノ令中重謹慎同營倉ニ處スヘキノ所爲ノ區別ヲ性質ニ因テ定メタルナリ

本條疎虞懈怠若クハ過失ニ係ハル時ハ輕謹慎輕營倉ニ處ストアリ疎虞過失ニハ故意ヲ以テスル場合ナシト雖モ懈怠ナルモノハ故意ヲ以テスルノ場合ナキニ非ス然ルルハ無論重キヲ以テ處セサル可ラス此等ハ罰ヲ科スル長官ノ認定ニ任スルモノトス

第二十一條 營倉ニ處ス可キ者下士上等兵諸生徒及

營外居住ノ者ナル時ハ〔下士及相當官兵卒相當〕禁足ニ在營兵

卒ナル時ハ苦役ニ換フルコトヲ得〔演習ノ餘暇雜役ヲナサシム〕

〔俗解〕エイソウヘイレベキモノガ、下士上等兵、セイト、ソトヘトマル、ソワイケイ



ソツ、カンゴソツナドナレハ、キンソクニカヘルコトガデキ、タイコオルヘ  
イソツナレハ、クエキニカヘルコトガデキル

〔補註〕本條ハ變例ニシテ若シ此ノ條ナキニ於テハ如何ナル憫諒スヘキモナル  
モ營倉入ノ痛苦ヲ受ケシメザル可カラズ之レ此條ヲ設ケテ上官ヲシテ寬  
嚴其ノ宜シキ制セシムル所以ナリ

禁足苦役ニ處スル時其日數ハ重營倉ノ一日ヲ三日

ニ輕營倉ノ一日ヲ二日ニ折算ス  
〔例ヘハ重營倉ノ十日ハ禁  
足苦役ノ三十日ニ換ヘ輕

營倉ノ十日ハ苦役禁足ノ  
二十日ニ換フルカ如シ

禁足苦役ニ處スル時營内居住ノモノハ其俸給十

分ノ二ヲ減ス  
〔十分ノ八  
ヲ給ス〕

〔俗解〕キンソククエキニカヘルトキニハ一日ノデウエイソウヲ三日ノキンソク、  
クエキトナシ一日ノケイエイソウヲ、二日ノクエキキンソクニカヘル

キンソク、クエキニカヘタトキニハ、タイノウチニテトマリナシテオル下  
士兵卒ハ、ニツキウ十ノニダケヒキサル

〔補註〕本條第三項營内居住ノ者ニ限り減給高ヲ減少セルハ營内居住ノ者ハ營倉  
ニ處セラル可キ場合ニ於テ減給高餘リ多キ故ナラン

第二十二條 禁足ハ勤務演習ノ外營外ニ出ルヲ禁

ス

〔俗解〕キンソクハ、ツトメムキレンペイヨリホカ、グワイシツスルコトハデキヌ  
〔補註〕諸外出ヲ禁ジテ不便ヲ感セシメ以テ懲戒スル也

營外居住ノ者ハ勤務演習ノ外他出ヲ禁ス但シ水

火災疾病等アル時ハ此ノ限りニアラス  
〔水火其他ノ  
災害アルト

キハ他出スルヲ得疾病アル時モ  
診斷ノ爲他出スルヲ得ルナリ

〔俗解〕ソトニテトマリヲシテタル下士卒ハ、ツトメノタメ、ケイコノタメヨリホ



カ、ヨソヘデラレヌ、シカシ、クワジナドノトキカ、ビヤウキノトキハデラレ  
ル

第二十三條 苦役ハ勤務演習ノ外營外ニ出ツルヲ

禁シ雜役ヲ執ラシム  
〔日々勤務演習ノ餘暇諸掃除等ヲナス〕

〔俗解〕クニキハ、ツトメレンベイヨリホカ、ソトヘデラレヌ、ソノウヘニ、ソウジナ  
ドサセル

〔補註〕下士上等兵ハ外出ヲ禁スルノミナルニ兵卒ハ其ノ上ニ雜役ヲ執ラシムル

所以ハ兵卒ハ常ニ身体ヲ勞役スルヲ多ク又々外出スルヲモ少キモノナレ  
ハ唯々禁忌ノミニテハ實際懲戒ノ目的ヲ達スル能ハサルノミナラス下士  
ト兵卒トハ其品位モ差異アルモノナレハナリ

第二十四條 諸卒〔兵卒及ヒ同等ノ卒〕ハ犯行ノ情狀〔猥リニ劍ヲ拔キ  
兵威ヲ籍リテ人

チ威迫スル等〕ニ因リ罰限滿ツルノ後三十日以内仍ホ其佩

劍ヲ禁スルヲ得  
〔禁スルト否トハ長官ノ隨意ニアリ而シテ諸卒ニ限ルナリ〕

〔補註〕本條ハ滿罰ノ後テ其ノ効用ヲナスモノニテ亦一種ノ懲戒法ナリ

〔俗解〕ヘイソツソウトウノモノハ、シワザノモヨウニヨリ三十日ノアヒダダケハ、  
ケンヲサスヲサトメルヲガデキル

第三章

犯行 此ノ令ニ該ル可  
キ諸犯行ヲ云フ

第二十五條 犯行ノ款目左ノ如シ

〔俗解〕ヨノチヤウハツレイデハツスルヲハヒダリニカヒテアルトナリデア  
ル

〔補註〕此犯行ハ一ヨリ二十九ニ至リ凡テ二十九件ニシテ百般ノ所爲ヲ網羅シ盡  
シテ欠漏ナシト雖厄万一此ノ犯行ニ該ラザル所爲アルキハ假令ハ軍隊ニ  
害アル所爲ト雖厄罰スルヲ能ハサルカ曰ク此令ハ刑法ト異ナルモノナレ  
ハ罰セサルノ限リニ非ルベシ



一 職務ノ權限ヲ誤ル者

〔俗解〕 ツトメムキニツキ、キメラレテアル、キソクナ、アヤマルモノ

〔補註〕 例ハ中隊長ガ兵卒ニ二十四時間以上ノ外出ヲ許ルシ或ヒハ二十日以上ノ營倉ヲ科スル等ノ如シ

本項ト陸軍刑法ノ擅權トヲ混同ス可ラス、權限ヲ誤ルトハ多クハ疎虞ヨリ生スルモノニシテ其ノ故意ヲ以テスルモ甚ク輕犯ニシテ其ノ害タル大ナラサルモノヲ云フ而ルニ擅權ナルモノハ充分ノ意思アリテ爲セシモノニシテ軍隊ノ危害殆レト之レヨリ甚キモノハアラサルベシ

二 訓導ノ道ヲ失フ者

〔俗解〕 シモノモノヲオシヘミナビクミナウシナヒタルモノ

〔補註〕 例ハ上官タルモノ部下ニ對シテ慈愛ヲ欠キ爲メニ軍隊ノ和親ヲ害スル等ノ如シ

三 上申下達其他定期アル時日ヲ稽緩スル者

〔俗解〕 カミヘモウシダテルコト、シモヘグツスルコト、ニチゲンノキマリアルコトナゲヤリニスルモノ

〔補註〕 本項ハ事務ヲ取扱フ人ガ諸事上申スルコト又ハ達スヘキコト又ハ日限ノ定メアル事務ヲ等閑ニシタルモノ例ハ中隊長カ部下ノ賞罰ニ關スル上申ヲ稽緩シ小隊副長カ達ス可キ命令ヲ等閑ニシ大隊副官カ定期ノ時日アル事務ヲ等閑ニスル等ノ如シ

四 文書計算ヲ誤マル者

〔俗解〕 カキヤクガ、カキモノヲナガヒテダシ、カンゴヨウカタガ、ゼニカンゴヨウヲナガヒタモノ

〔補註〕 本項ハ文書計算ヲ誤リ爲メニ不都合ヲ生シ場合ヲ云フ若シ之ヲ誤ルト雖も自ラ之ヲ覺リ不都合ヲ生セザル前ニ之ヲ正誤セシ時ノ如キハ懲罰ヲ科スルノ必要アラサルナリ

五 命令ヲ誤リ若クハ之ヲ誤リ傳フル者

〔俗解〕 メイレイチアヤマリテダシ、マダハキ、ナガヒテタツスルモノ



〔補註〕本項ハ長官カ規則ニ背キタル命令ヲ誤達シ若クハ長官ノ命令ヲ誤聞シテ之ヲ傳フル者ヲ云フ其ノ出ス可キ命令ヲ出ダサマル如キハ第三ノ犯行ニ觸ル、者ナリ

### 六 物件ノ調製貯藏運搬支給ヲ誤ル者

〔俗解〕クワイケイクワンガ、シナモノ、コシラヘカタチアヤマリ、マダハ、ヨビノシナチカコヒカタチアヤマリ、マダハ、ニモツノウンソウカタチアヤマリ、マダハ、シナモノ、ワタシカタチアヤマルモノ

〔補註〕例ヘハ計官ガ定規ニ違ヒタル被服ヲ調製シ又ハ計官給養掛等ガ豫備品ノ蓄藏法ヲ誤リ又ハ輜重隊長若クハ運搬ヲ擔當セルモノカ運搬ヲ誤リタル等ノ如シ又ハ會計官ガ定期支給ス可キ品物ヲ誤テ支給セス若クハ之ヲ支給スルモ定規ノ員數ニ過不足アル等ナリ

### 七 職役若クハ屯營本隊ヲ離ル、者

〔俗解〕クワイシツサキヨリカイラス、マダハダツサクナドスルモノ

〔補註〕公務其他ノ諸外出ニ當リ歸營ス可キ時ニ歸營セズ又ハ脱營シテ六日間以內ニ歸營セシ者ヲ云フ六日ヲ過グル時ハ陸軍刑法ノ問フ所トナル  
陸軍刑法第百十七條ニ曰ク軍人擅マ、職役若クハ屯營本隊ヲ離レ六日ヲ過グルモノハ逃亡トナシ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處スト

### 八 他方ニ趣キ歸着ノ期ニ後ル、者

〔俗解〕ハウンヤウキユウカナドデ、ヨソヘユキ、カヘルベキトニ、カヘラヌモノ、  
〔補註〕褒賞休暇其他許可ヲ得テ他方ニ赴キ歸ル可キ日限ニ後レタルモノニシテ前項ノ職役ヲ離ル、モノト混同ス可ラス前項ハ六日ヲ過グレハ刑法第百十七條ノ問フ所トナレズ本項ハ十日ヲ經テ刑法第百六條ニ該ルモノナリ故ニ十日以內ハ本項ニ依テ處分スヘキモノトス  
陸軍刑法第百六條ニ曰ク軍人允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナクシテ歸着ノ期ニ後レ十日ヲ過クルモノハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處スト

### 九 行軍ニ際シ發程及ヒ乗船ノ期ニ後ル、者



〔俗解〕 コウゲンヤウ、シツタツノシヨクニオシレ、マタハ、フチニノルジヨクニオクレタモノ

十 召集ノ期ニ後ル者〔歸休兵豫備後 備兵等ヲ指ス〕

〔俗解〕 キキウヘイ、コビコウビヘイガデルベキトニオクレタモノ

〔補註〕 正當ノ理由ナクシテ召集ノ期ニ後クレ十日以内ニ在ツテハ本項ニ該ルト雖モ十日ヲ過クル時ハ陸軍刑法百七條ノ制裁ヲ免レス

陸軍刑法第百七條ニ曰ク歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニアルモノ故ナク召集ノ期ニ後レ十日ヲ過クルモノハ一年以上以下ノ輕禁錮ニ處スト

十一 受寄ノ財物官給品及ヒ他人ヨリ預リタル品若クハ借用物他人ヨリ借タル品

ヲ典却スル者

〔俗解〕 カミカラワクリモノ、ヒトカラアツカリモノ、マタハカリモノナドチ、シテニイレタモノ

〔補註〕 本項ハ典却セシモ返納ス可キ時ニ差支ナカリシ場合チ云フ若シ返納ノ期

ニ催促ヲ受クルモ返納セス若クハ流レ質トナリタル如キハ刑法ノ問フ所ナリ

十二 官物ヲ擅用スル者官ニ属スル物品ヲ自家ノ用ニ供スル等

〔俗解〕 カミノシナモノヲ、カツテニツカウモノ

十三 法則内務書等ニ記載スル隊中ノ諸規則命令上官ヨリ命令ヲシテ若クハ之ヲ誹謗スル者

ル者若クハ之ヲ誹謗スル者

〔俗解〕 カミノヒトヨリ、イヒツケラレタルヲチ、マモリシタガハヌモノ、マタハ、コレヲウルクイフモノ

〔補註〕 本項ハ陰カニ之ヲ誹リタルモノチ云フ若シ直接ニ命令セシ人ニ對シテ之ヲ誹謗スルガ如キハ命令ヲ誹謗スルニ非ズシテ上官ヲ侮慢スルモノナレハ陸軍刑法第九十三條ノ問フ所ナリ

陸軍刑法第九十三條ニ曰ク軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處スト



### 十四 罵詈若クハ侮慢鬪争スル者

〔俗解〕 タガヒニ、ノ、シリ、マタハ、アナドリ、マタハ、ケンクワ、アヲソヒスルモノ  
 〔補註〕 本項ハ軍務外ノ事ニテ同等以下ノモノニ對シテナセシ時ヲ云フ、同等或ハ下等ノ者ト雖モ軍務ヲ行フ時ニ當リテ罵詈若クハ侮慢スルモノハ陸軍刑法第九十六條ニ該ル軍務外ト雖モ上官ニ對スルキハ第九十三條ニ該ルナリ

陸軍刑法第九十六條ニ曰ク軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之レニ對シテ罵詈若クハ侮慢スル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

同九十三條ニ曰ク軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處スト

### 十五 暴行脅迫スル者

〔俗解〕 ランハウマタハミヅリニヒトヲオドスモノ

〔補註〕 本項ハ極メテ輕犯ニシテ若シ重キハ陸軍刑法第七十六條以下及び普通刑法ノ問フ所トナル

### 十六 猥リニ劍ヲ拔ク者

〔俗解〕 ヤガラニケンヲヌクモノ

〔補註〕 劍ナル者ハ軍人ノ貴重ス可キモノナルニ猥リニ之ヲ拔ク如キハ自ラ世人ニ賤ラル、モノナレハ遊戯ノ爲メニスルト他ノ爲メタルトヲ問ハズ本項ノ問フ所ナリ而レモ若シ劍ヲ拔キテ脅迫スルモ等ハ刑法ノ問フ所トナル

### 十七 酩酊シテ事ヲ省セサル者

〔俗解〕 サケニヨフテセンゴヲウシナヒタルモノ

〔補註〕 本項ヲ解釋スルニハ最モ意ヲ用ヒサル可ラス本項事ヲ省セサル者トアレハ大醉シテ前後ヲ失ヒタルノミニテ本項ニ觸ル、ハ勿論ナレモ又タ前後ヲ失ヒテ罪ヲ犯セシ時モ其ノ犯罪ノ當時前後ヲ忘却シテ知覺精神ヲ失ヒタランモハ本項ニ該テ刑法ヲ以テ論ス可キモノニ非ズ今マ本項ノ精神ヲ



明瞭ナラシメン爲メ暫ク普通刑法ノ根據トスル所ヲ畧論セン  
 普通刑法第七十八條ニ曰ク罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニヨリ是非ヲ辨別  
 セザルモノハ其罪ヲ論セズト夫レ知覺精神ノ有無ハ罪ヲ構造スルト否ト  
 ナ定ムルノ一大要件ニシテ若シ瘋癲白痴ノ如キ知覺精神ヲ喪ヒタルモノ  
 ハ如何ナ所爲アリトモ之ヲ罪トシ論ス可キモノニ非ルハ理ノ最モ賤易キ  
 所ナリ而ルニ泥酔者ノ所爲ニ至テハ瘋癲白痴ト異ナリ自ラ酒上ノ惡癖ア  
 ルヲ知リ乍ラ之ヲ過ゴシ爲メコ罪ヲ犯ス者アリ或ハ酒勢ニ乘ジテ惡行ヲ  
 遂ゲントスル者アリ而レモ酒上ノ惡癖アルヲ知リ乍ラ泥酔シテ罪ヲ犯シ  
 タルモノハ只ダ其惡癖アルヲ知ラハ謹ム可キニ之レヲ謹マザルモノナレ  
 バ或ハ道德ニ背シアルモ其犯罪ノ當時知覺精神ヲ失ヒタランニハ決シテ  
 刑法ノ罪ヲ構造スルモノニ非ズ第七十八條ノ正面ニ該リ不論罪トナルヤ  
 疑テ容レサルナリ而ルニ酒勢ニ乘シテ惡事ヲ果シタル如キニ至テハ假令  
 ヒ知覺精神ヲ喪フモ刑法ノ罪ヲ免レザルガ如シト雖モ凡テ刑法ノ罪ヲ成  
 ニハ必ズ知覺精神アリテ決心ト決行ト其時ヲ同フセザル可ラズ(例ハハ人  
 ナ殺サント欲シ同時ニ知覺アリテ之ヲ殺スモノ)若シ決心ノ時ノミ知覺ア

リタル時(例ハハ人ヲ殺サント決心シタルモ其ノ殺セシ時ハ己ニ知覺ヲ喪  
 失セシ時)ハ理論上罪トナラサルナリ此ノ點ニ至テハ各國法律論者ノ說極  
 メテ多ク之ヲ決センニハ容易ノ事ニ非ルカ故ニ暫ク疑ヲ存シテ讀者ノ  
 研究ニ任センノミ  
 以上論スル如クナルヲ以テ假令ヒ其所爲ヨリ如何ナル害ヲ生スルモ其決  
 行ノ當時知覺精神ヲ喪ヒタルモノハ刑法ノ問フ所ニ非スシテ即チ本項ノ  
 正面ニ該ルモノナリ然レモ特別ノ法律ヲ以テ定メラレタルモノハ此ノ限  
 リニ非ズ例ハ哨兵酩酊シテ事ヲ省セサルモノハ陸軍刑法第百條ニ該ル  
 等ノ如シ

### 十八 言語所爲詐僞ニ涉ル者

(俗解) ウソチイヒマダハイツハリゴトヲスルモノ

(補注) 本項ハ詐僞ノ輕犯ニシテ其重キモノハ陸軍刑法百二十一條以下普通刑法  
 百八十二條以下ノ問フ所トナル

### 十九 疾病事故ニ托シテ勤務ヲ免レントスル者



〔俗解〕 口ヤウキ、マタハ、ワヅカノヨウシニカコツケ、ツトメマタハ、レンベイチノガレントスルモノ

〔補註〕 本項ハ免ガレントスル者トアレヒ免レタル者モ亦タ含有ス又タ疾病事故ニ托シタル場合ヲ云フモノニシテ疾病ナキチ有ルト云フ如キハ犯行十八ニ該ルナリ

二十 抗言 上官ニ抗言スルコト 恃頑 頑固ニシテ自己ノ意ヲ貫ントスル者 從順 上官ニ對スル服從法ノ道ヲ失フ者

〔俗解〕 カミニサカラヒ、マタ、ジブンノイフタコナイヒバリ、カミノヒトニシタガワヌモノ

〔補註〕 本項ハ上官ニ服從セザルノ輕犯ニシテ其ノ命令ニ抗スル等ノ重キモノハ陸軍刑法第六十六條以下ニ該ルモノナリ

二十一 犯罪ノ罪アルヲ知テ曲庇スル者  
〔俗解〕 ツミノアルコトヲ、シリナガラ、シラストイフテ、ヒトノツミヲ、カクヌモノ

〔補註〕 本項ハ人ノ非ヲ告發セザルモノヲ云フニアラズ曲ゲテ庇ハントスルモノヲ云フナリ又タ刑法ノ偽証罪ト混ズ可ラズ

二十二 勤務演習集合ノ期ニ後レ若クハ之ヲ欠キ若クハ之ヲ懈タル者

〔俗解〕 ツトメレンベイチナドニテアツマルベキ時ニオクレ、マタハ、デナイモノ、マダハ、ナマケルモノ

二十三 服装法ニ違フ者

〔俗解〕 キソクドウリノ、キモノ、キカタヲシナイモノ、

二十四 禮節式ニ違フ者 陸軍敬禮式

〔俗解〕 レイシキヲマナガヒ、マタハ、レイシキヲセヌモノ

二十五 官給ノ物件措置拭拂法ニ違フ者



〔俗解〕 カミカラ、ワシリタルモノヲ、トリミダシテオキ、マダハ、テイレノシカタチ  
マチガイタモノ

二十六 物件（官給ノ物件）ヲ誤毀遺失若クハ汚損スル者

〔俗解〕 カミカラワリタルモノチ、アヤマチテコワシ、マダハ、ナクシ、マダハ、ヨゴスモ

二十七 失言（非理不當ノ言語）過言（無禮ナル言語）若クハ應答ノ事理（ヒリ）應答

ノ道ヲ誤ル者

〔俗解〕 ヒトニムカヒ、ミチニカケタコトチイヒ、シツレイナコトチイヒ、マダハ、ツ  
キアイノミチニ、ハツレタルモノ

二十八 軍人ノ態度ヲ失フ者

〔俗解〕 ヘイタイノフウギチミダスモノ

〔補註〕 本項ハ關スル所極メテ廣ク前二十七犯行外ニシテ憶病ノ動作卑屈ノ所爲

賤陋ノ風等ヲ爲スモノヲ云フ

二十九 上ニ掲クル犯行ノ外素行修マラサル者

〔俗解〕 マヘノキンクニ、アタルモノ、ホカ、ヘイセイノ、ギヤウギノワルイモノ、

〔補註〕 本項ハ前二十八犯行外ニシテ此ノ令第一條ニモ掲ケラレタルモノニシテ  
別ニ一個懲罰ノ原因タルモノナリ

〔總註〕 此ノ懲罰令ナルモノハ刑法ト異ナリテ行政ノ處分ニ係ルモノニシテ陸軍  
部内ノ靜肅ヲ保護セン爲メ特別ニ設ケラレタルモノナレハ此ノ令ヲ適用  
スル長官タル者ハ能ク犯行ノ情狀ヲ觀察シ寬嚴其中ヲ失ハズシテ懲戒ノ  
目的ヲ充全セシメンコトヲ勉メ一タビ之ガ罰ヲ受ケタルモノモ亦タ能ク此  
令ノ深意我ガ身ヲ保護スルノ至レルヲ思ヒ以テ再ビ疎虞過失等ナキニ注  
意セバ軍隊ノ進歩期シテ而シテ待ツ可キノミ

陸軍懲罰令詳解終



正誤

十二ページ 一行メ モノ下ニ「アリ」ノ二字ヲ脱ス

二十ページ 十八條ノ註 管外ハ〔管外〕ノ誤リ

二十二ページ 二十條二行 係ル者ハノ下ニ「輕謹慎經營倉ニ處シ  
其ノ故意ニ係ル者ハ」ノ十八字ヲ脱ス

明治二十年一月二十四日出版御届  
同 年 二 月 十 二 日 出 版

定價金拾四錢

註解者

神奈川縣士族

鈴木定次郎

上野國西群馬郡高崎  
龍見町貳拾六番地

群馬縣平民

出版人

森橋福次郎

上野國西群馬郡高崎  
若松町拾壹番地

發行所

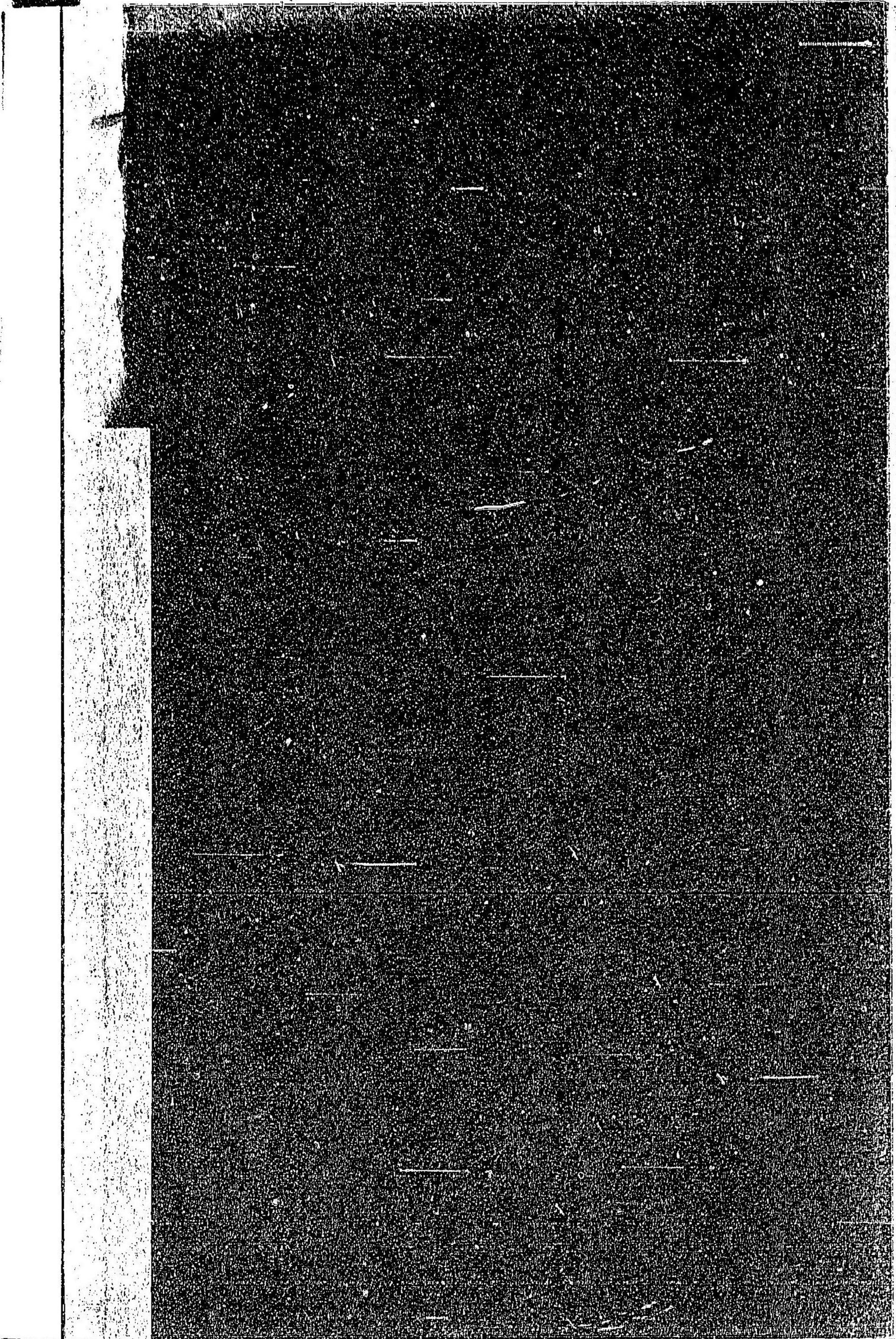
成立舎支店

上野國高崎驛田町

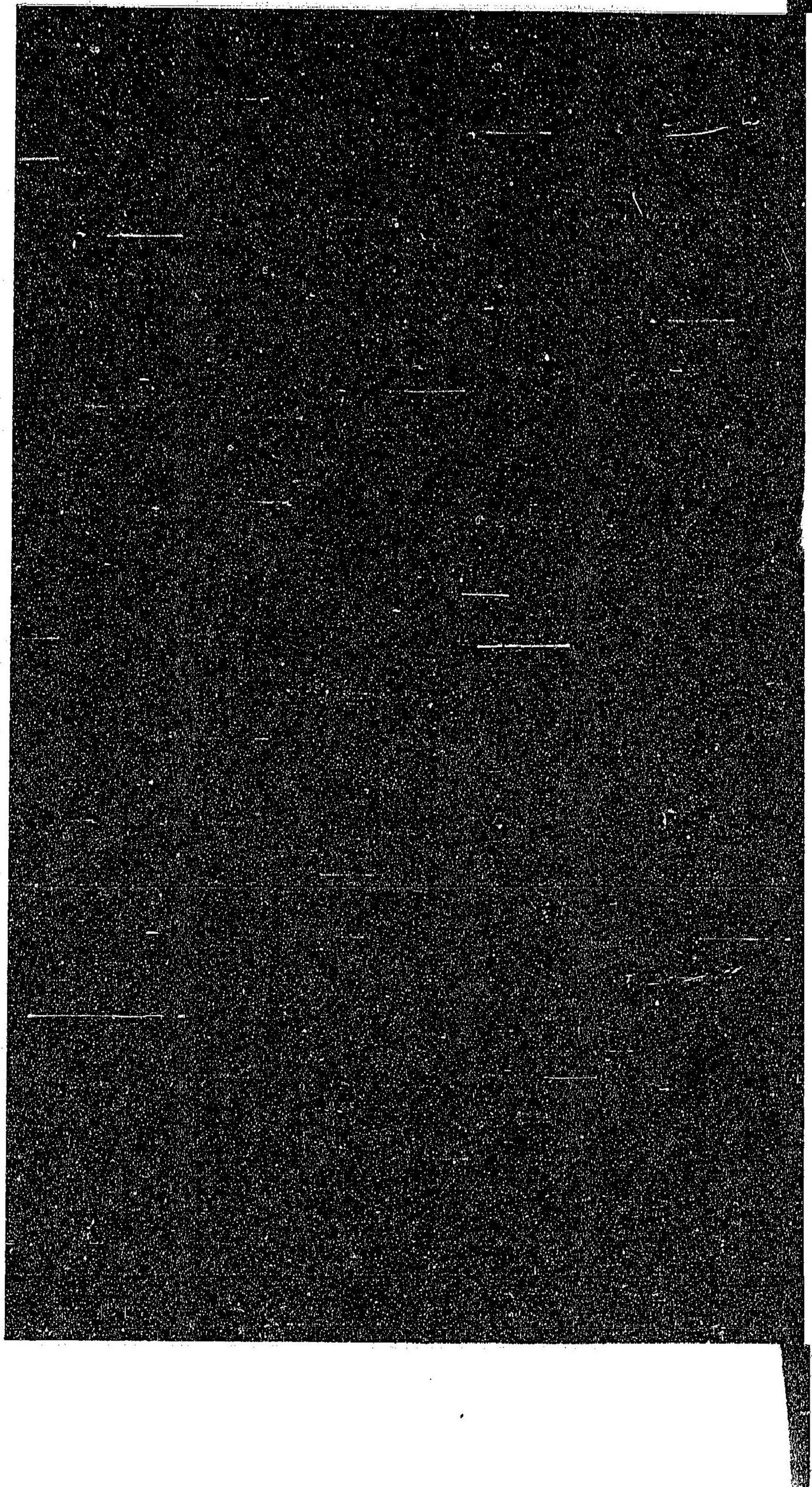




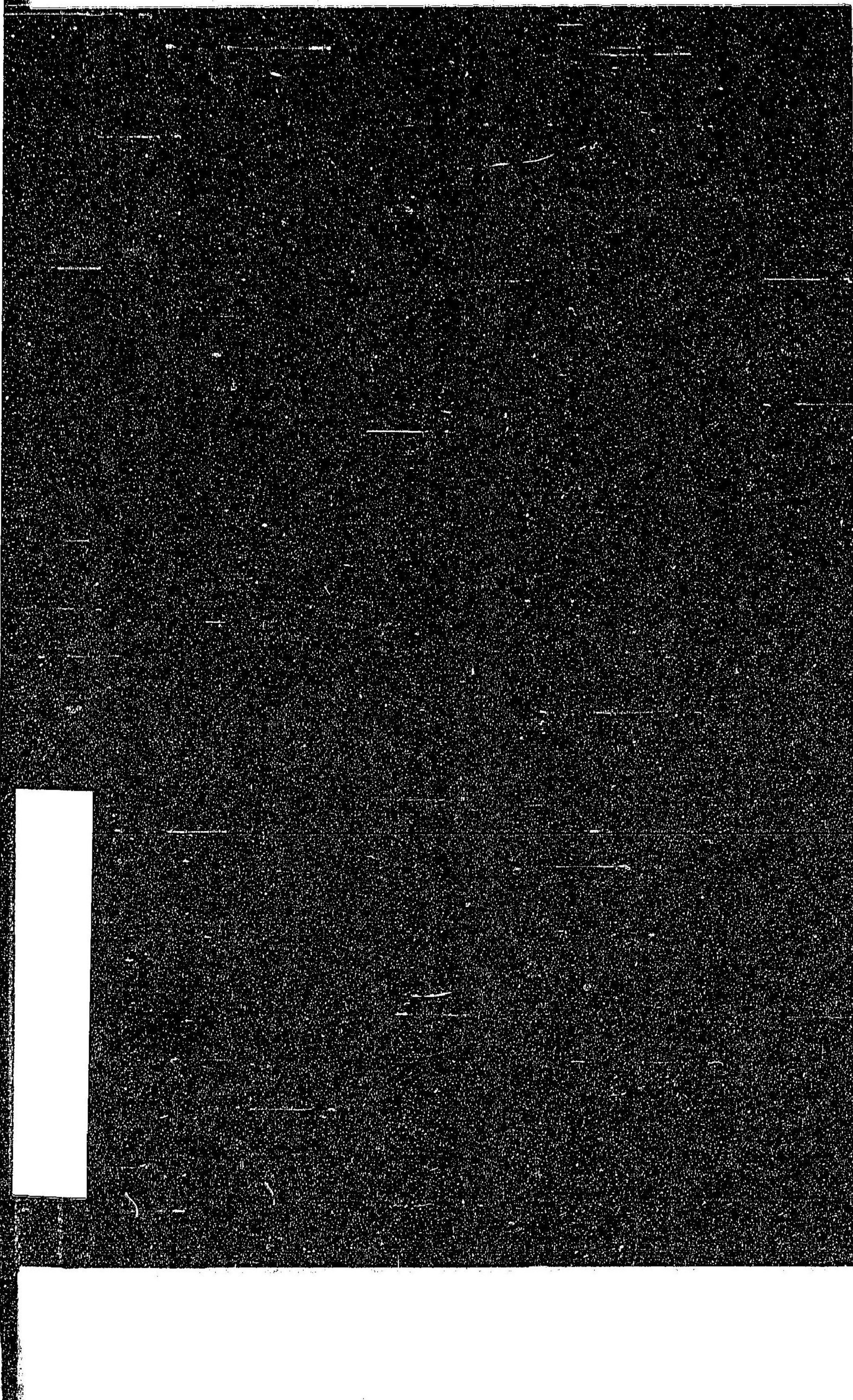














特 50

430

陸軍懲罰令詳解

国立国会図書館

036349-000-4

特50-430

陸軍懲罰令詳解

鈴木 定次郎 / 著

M20

BBQ-0051





